

# しいたけ（ジャンボシイタケ）

## 【特徴】

ジャンボシイタケは、クヌギ・ナラなどの広葉樹原木に農協種菌115号を種菌し、散水などの作業により大型（直径7cm以上）で肉厚（3cm以上）に育てあげたもの。駒菌栽培は、2夏経過後の11月より発生する。

## 【作型と品種】

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	主な品種
作型													
1年目		○	○	△	△	◎							ウェルカム
2年目以降													

## 【作り方】

### 1. 伐採・玉切り

伐採は紅葉初期に行い、約2週間くらい葉枯らしした後に玉切りを行う。

### 2. 植菌

植菌は梅の開花期からソメイヨシノ桜の開花期までに行うと良い。

早く植菌したほだ木ほどシイタケの発生も多くなる。植菌数は直径10cm、長さ1mの原木なら1本あたり30個程度。

### 3. ほだ木づくり

春から秋までほだ木に直射日光があたり、ほだ木に十分雨が当たり、かつ風通しの良い場所に伏せ込む。

夏の直射日光がほだ木に当たると、シイタケの菌糸が弱ったり死滅したりする。また、ほだ木が過度に乾燥してもシイタケ菌の生長は悪くなる。逆に風通しが悪く、雑菌が進入しやすくなる。

### 4. 発生操作

ほだ木内に菌糸がよくまん延してくると、きのこの原基が外樹皮下に形成されます。そのほだ木が適量の水分を吸収し、低温の刺激を受けたとき、きのこが発生する。

最低気温が8℃以下に下がり発生し始めたらハウス内に移動し、散水して成長を促す。

## 採取

かさかさが6～7分開きの肉厚なものを採取する。